

組織的なアプローチ I

組織的アプローチの重要性

社会福祉法人 嬉泉
板橋区立赤塚福祉園
主任支援員 北川 裕

この時間で学ぶこと

1 統一した支援の必要性（復習）

障害特性にマッチした支援
求められるチームプレイ

2 組織的なアプローチ

統一した支援を広げる必要性
統一のための組織的な工夫

1 統一した支援の必要性

強度行動障害者支援 | 6つのコンセンサス

- ☑ 構造化された環境の中で
- ☑ 医療と連携しながら
- ☑ リラックスできる強い刺激を避けた環境で
- ☑ 一貫した対応をできるチームを作り
- ☑ 自尊心を持ちひとりでできる活動を増やし
- ☑ 地域で継続的に生活できる体制づくりを進める

障害特性に
合った支援

統一した
支援

コンセンサスの根拠

- ☑ 強度行動障害は生きにくさの表出
- ☑ 生きにくさは障害特性にミスマッチな環境による

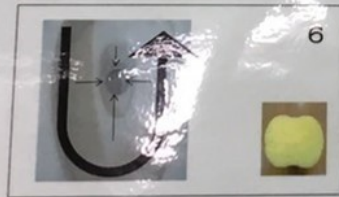
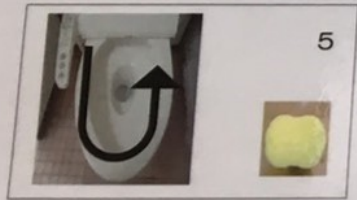
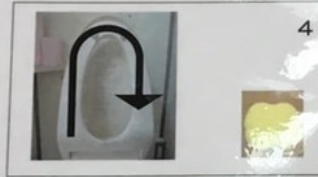
支援の統一 | 構造化された環境



↑便器

↑便器

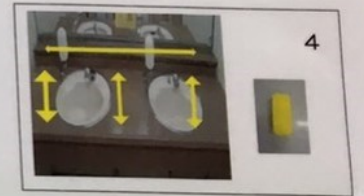
便器 磨き



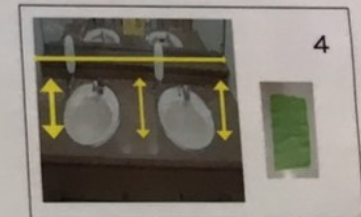
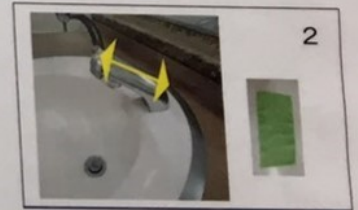
↑洗面台

↑洗面台

スポンジ



水拭き





【構造化】

- ① どこで ② いつ ③ 何を
- ④ どのくらい？いつまで？ ⑤ どのようなやり方で
- ⑥ 次に何をすればいいのか

利用者にも職員にも分かりやすい。場所や課題、スケジュールなど「見ただけで理解できる」内容

職員間での共通認識ができれば、周知する情報量は大幅に減少。また統一も容易になる

支援の統一 | 支援手順書（例）

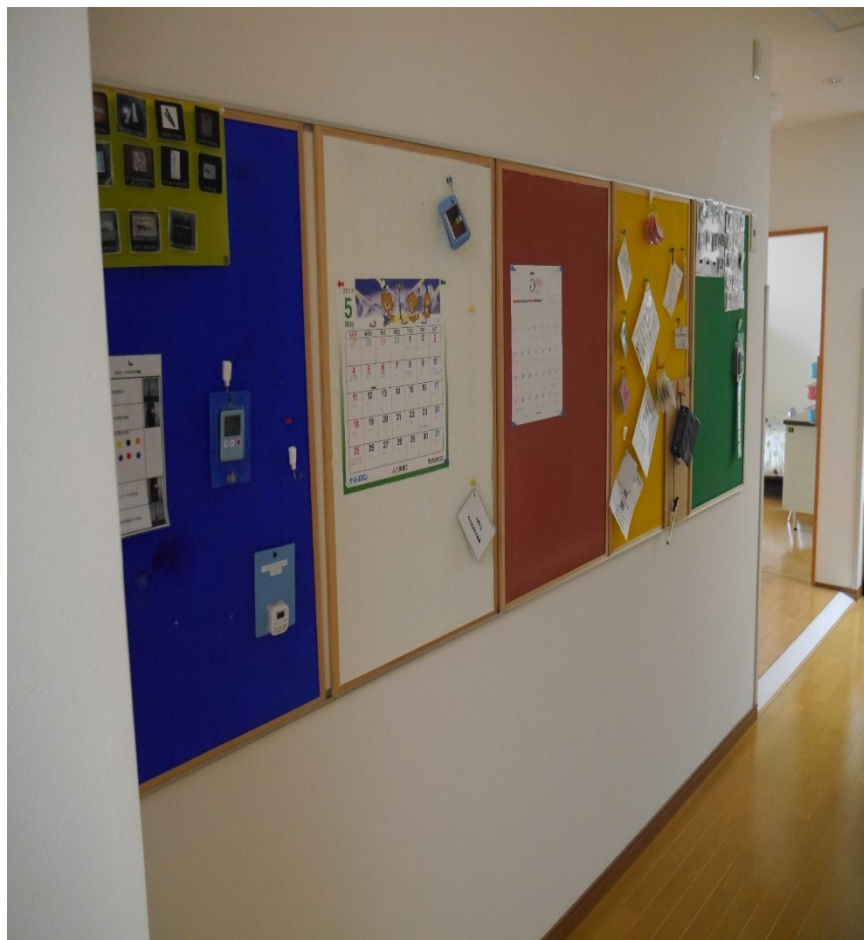
時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 静養室（スケジュール）→静養室（着替え）→静養室（休憩）→アラーム（9:50）→作業室
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】 作業室→静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（お茶休憩）→アラーム→作業室
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）→静養室
11:45-12:45	昼食 昼休み	【スケジュール5：昼食】 静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（スケジュール）→食堂（昼食）→静養室（休憩）

【連絡事項】

- 活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- 静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ロッカーは静養室に移動しました。着替えは静養室で行ってください。
- 熊谷さんと動線が重ならないように注意してください（特に朝、休憩時間）
- 自立課題終了後、帰りの準備をするまでに20分間の休憩が入ります。

【問合せ事項】

支援の統一 | 統一すべきこと 個別化すべきこと



利用者にとっての分かりやすさで統一



利用者にとっての分かりやすさは個別化